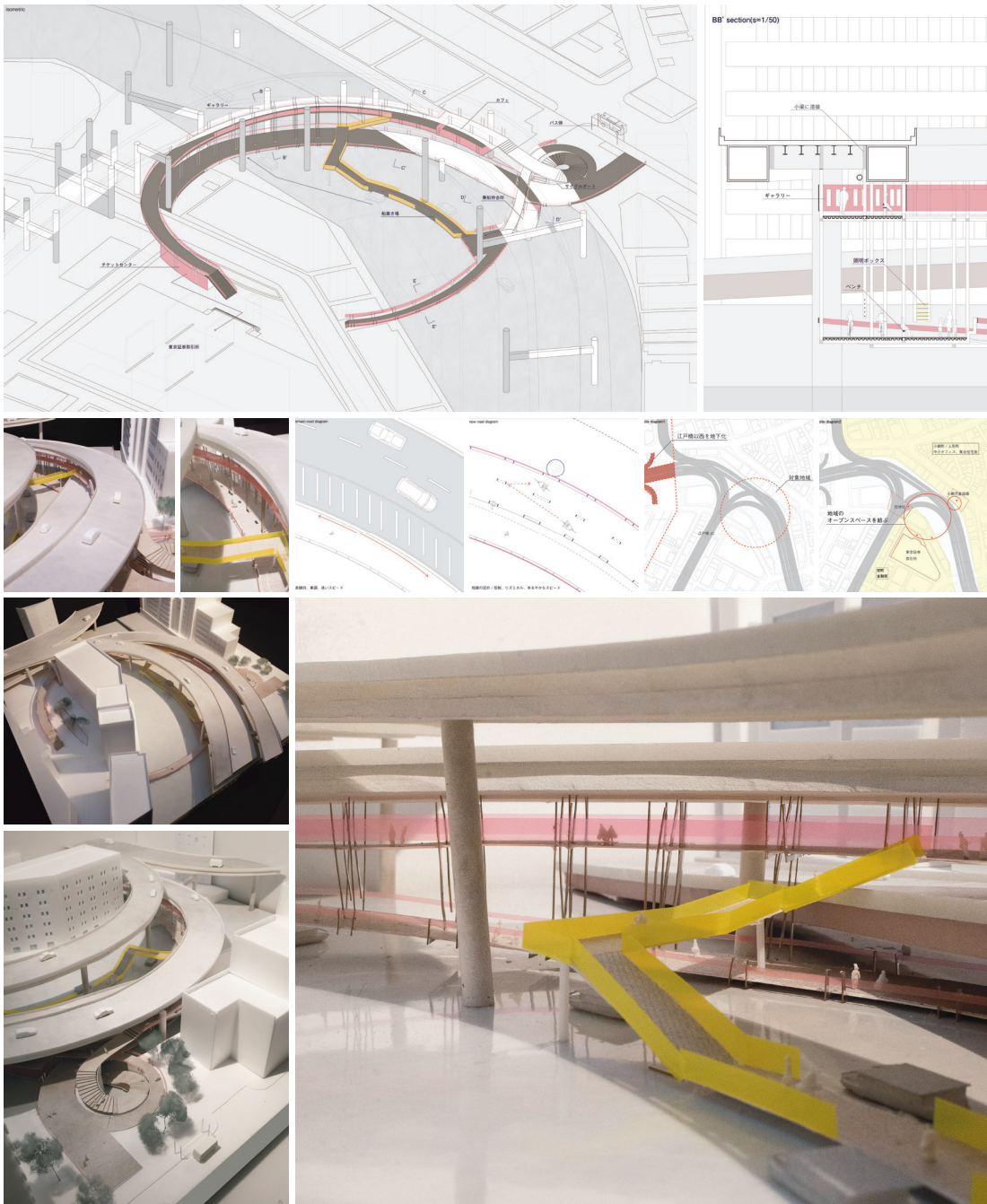




Processing



小森 恵太
Keita KOMORI

首都高は江戸橋の西側より地下化されますが、一方で江戸橋の東側では一部道路が間引かれるものの、依然として首都高が鎮座し続けます。こうした地域において、点在するオープンスペースを結び、相互利用を促すことにより首都高の下のだんだ水辺を活用する共に地域全体の活性化を目指します。

新設される道は、既存の道(=首都高)のネットワークに加わるように立体交差を何度も繰り返し、首都高との相対的な関係性によって多様な場所性を生みます。同時にそれぞれの経験がハの字の図式を伝ってゆるやかに混ざり合い、

緩やかな全体を浮かび上がらせます。

首都高のスラブを屋根としている箇所においては、小梁の両側に柱を溶接することにより、部分的に吊り構造を実現しています。結果、首都高の曲線はダブルコラムのリズムに置き換えられ、柱を鏡面仕上げとすることによって空間に奥行きが生まれました。

構成やディテールは首都高自身参照し、備えられたパラメータをいじることによって参照元とは別種の空間を現像=processingしています。